

紀伊國名所圖會

二之卷
海部郡





紀伊國々所圖會卷之二目錄

ちね茶屋
 弥勒山
 雑沓浦
 雑沓浦
 九百羅漢寺
 鶴立嶋
 甲冑
 芦辺浦
 名敷谷
 台海樓
 妹背山
 妹背山
 妹背山
 根上り松
 雑沓合戦
 梅溪翁足趾
 秋葉大獲見
 芦辺寺旧趾
 兵隊大石
 行楽の芦
 着床ち
 芦辺茶屋
 崖の行
 名珠院
 観石
 日向岩
 矢宮
 小町峯
 宗祇松
 芦辺園池
 三断橋
 奥洗岩
 雑沓野
 小江浦
 亀遊巖
 蛭の宮
 宗祇瀬
 雑沓城趾
 妙見半
 郭公次
 観海樓
 濁島



根上り松

根上り松の南郡七十八年... 此地の地味... 根上り松の南郡七十八年... 此地の地味... 根上り松の南郡七十八年... 此地の地味...

源安足

大石

牛

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

愛宕山各味院瑞雲寺

赤野寺山

赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味... 赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味...

赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味... 赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味...

赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味... 赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味...

赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味... 赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味...

赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味... 赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味...

赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味... 赤野寺山の南郡七十八年... 此地の地味...



去來
郷
畑
山



圓珠院
愛宕権現

觀石



若山
 眠洞
 此の山は
 古くより
 名僧の
 修行の
 所なり
 といはれ
 たり

伏魔堂



九百羅漢禪寺
 秋葉権現社

本堂

仁王門

龍王池

天の金
林

戸辺寺四跡

法師谷 僧老寺のうしろの

小町が峯

法師谷 僧老寺のうしろの

規の宮

甲崎 規宮

辨成天

日正れありあけの味持ふ

宗祇の寺

宗祇の寺

宗祇の頼

甲崎の宗祇の頼

野田好古尚甫 二儀二儀高 下擊遠眸南吞二峯接十洲 激浪噴雪動地軸 徹空雲帆蠻 野田好古尚甫 二儀二儀高 下擊遠眸南吞二峯接十洲 激浪噴雪動地軸 徹空雲帆蠻 野田好古尚甫 二儀二儀高 下擊遠眸南吞二峯接十洲 激浪噴雪動地軸 徹空雲帆蠻

戸辺浦

新勅 御製 戸辺浦の田鶴のうしろの

新勅

御製 戸辺浦の田鶴のうしろの

玉葉

太宰大貳 戸辺浦の田鶴のうしろの

續後

法眼行澄 戸辺浦の田鶴のうしろの

新十

藤原長遠 戸辺浦の田鶴のうしろの

新拾

花園院 戸辺浦の田鶴のうしろの

新後

法印實基 戸辺浦の田鶴のうしろの

新續

二條院讚岐 戸辺浦の田鶴のうしろの

日

前參議行忠 戸辺浦の田鶴のうしろの

日

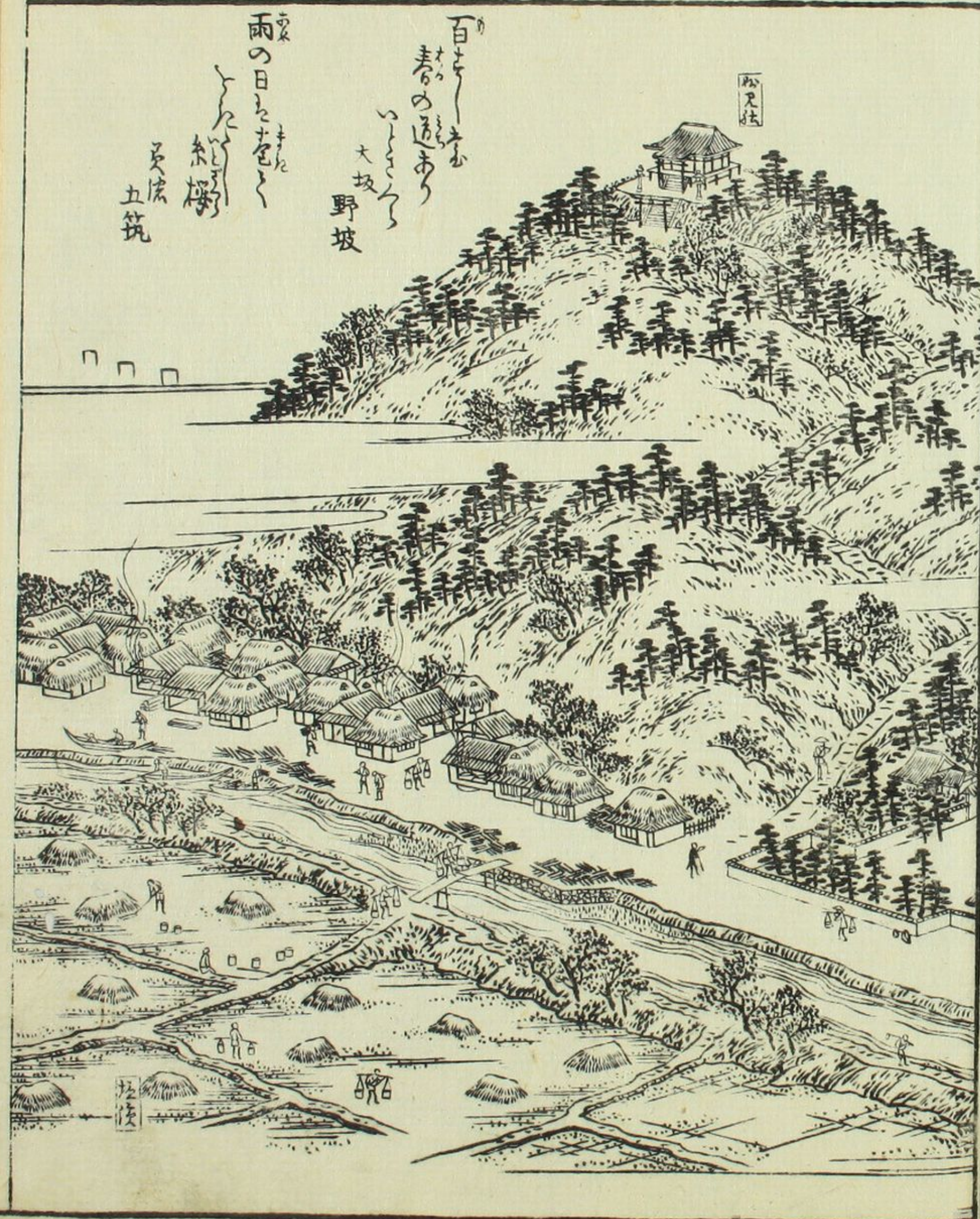
須河法師 戸辺浦の田鶴のうしろの

養珠寺
妙見堂

養珠寺賞
垂絲櫻花

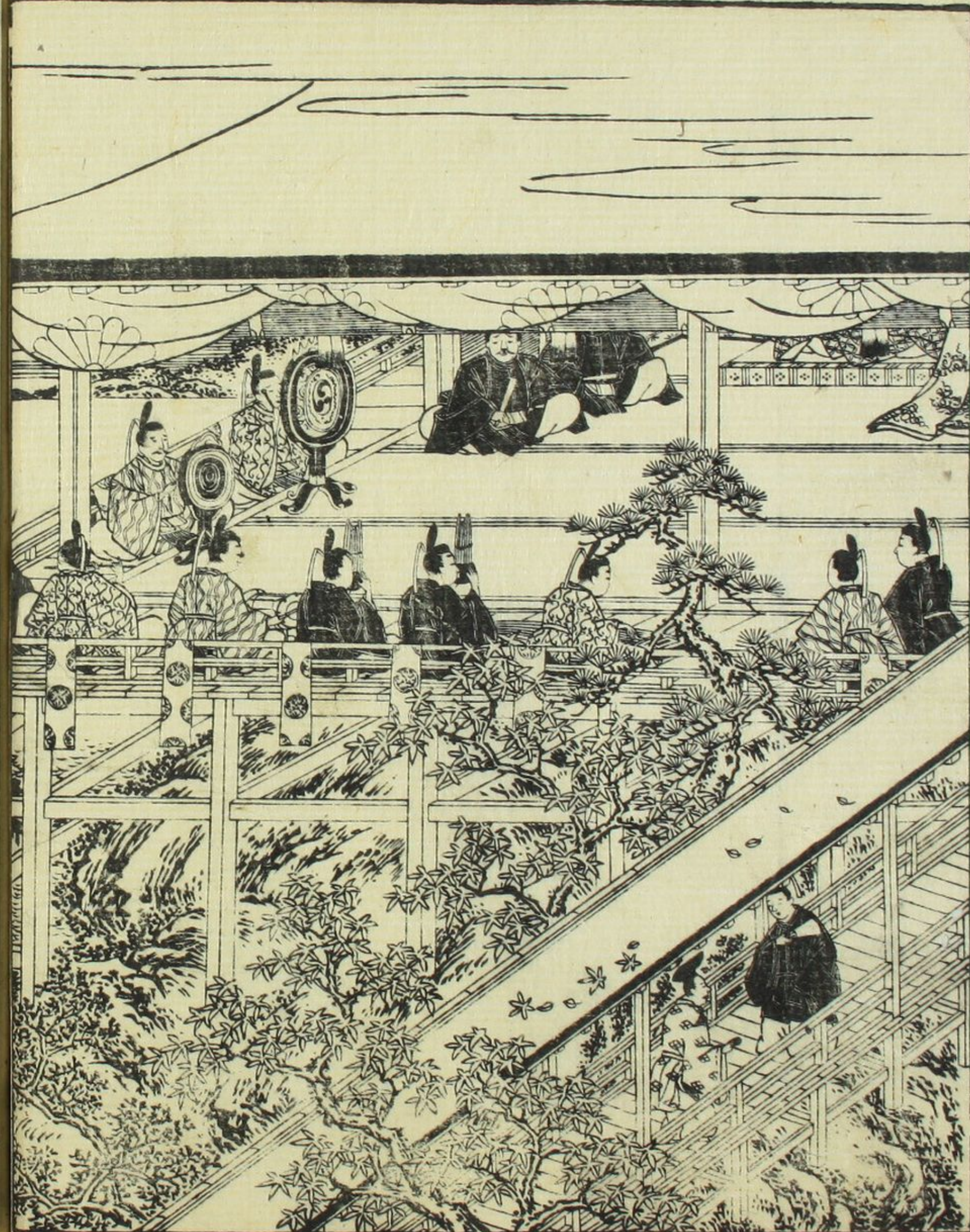
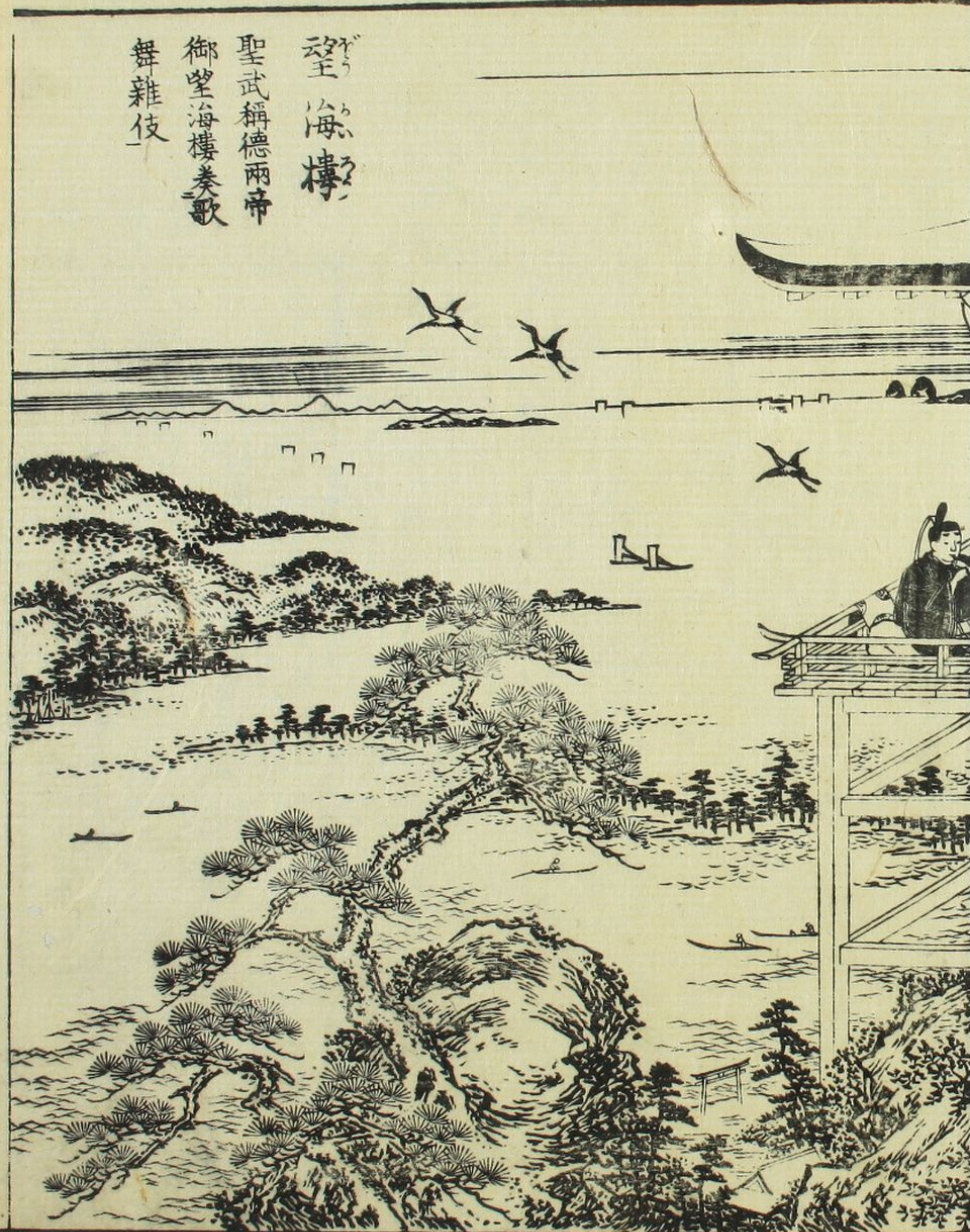
夜來新雨足枝放十
分妍華分比梨暖條
々借柳點字林地勝
繁客醉花豔年但恐
暴風夜正逢寒食前
祇南海

垂絲宜春花
宜春死裏競妖燒移
種遙隨南海潮織女
機絲天外若仙姬鍼
線日邊飄樹風白髮
三千丈帶雪年楊十
萬條曾作東方春
色壬午年獨立衆
芳朝
松岳



百々
春の道あり
大坂
野坡
雨の日と夕色
五筑

聖武稱徳兩帝
御望海樓奏歌
舞雜伎





紀伊の事記區々あり、倭の傳はく、わが出たり、
洋殿二十六秋仙圖將序與甫こ

神樂舎神樂明和中近衛 寶庫禁裏御所代々市法樂

石築双卷正徳四年 靈元上皇市奉納銘曰
神前常夜燈市鎮市成就書亦甲斐直直の銘
兼應四年 國君より市奉納銘曰

日 双卷於戲靈瑞于今干昔、質堅影安、永世同跡。
神龜元年甲子冬十月五日辛紀伊國時山部赤人作歌一首

百葉 安見か之、私朝大王之常宮等仕奉流左日鹿野由背上尔

所見奥嶋清波激尔風吹者白浪左私伎潮干者玉藻前管

神代徒然尊吉玉津島夜麻

日 奥嶋荒儀之玉藻潮干満伊隱去者所念武香聞

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

古今 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

後撰 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

全葉 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

續後 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

續古 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

同 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

續古 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

玉葉 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

日 玉津島見之善聖吾無京往而感思者日

凡雅

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

よみ人し凡

新十

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

源親長朝臣

新拾

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

津守小道

新後

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

信実朝臣

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

大伴山光麻

新續

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

大伴朝光麻

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

鹿園院入道

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

大政大臣

天本

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

後支那院

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

白前大

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

後九条内大臣

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

右大臣

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

後法

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

法印高家

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

持大御言忠良

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

後倉右大臣

教本

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

俊頼

日

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

永縁

月信

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

後京極權

玉方

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

大政大臣

千五

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

家隆

新六

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

行家

名所

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

忠定

歌合

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

俊成

南都

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

后鳥羽長

艸庵

玉は女も山もあすつらやしくつものてんみわ人の為

頭阿法師

年ゆれ老も日くそわの浦へつ世なるり玉侍の娘 津守團老
是は信吉神宮寺のまゝ浄土あり團老此堂と建支のた壇
の石りふ紀伊国に渡るふ天浦の玉侍真ふ林林ありらきむの
長通娘のけしとて面白がるたるひく神と後水く跡密る
たりとあつらひ人ゆじたらをい讀くなるあり其後のゆあ
に唐髪よく裳唐衣そりあ十人ぞり出ぬくうきしとた
慶りよちうとくくとくた石やとく教るまの昔のどく石あり
こゆあちとくまらる一度に十二顆に破れく壇の飾へり
魁とく又山畠准后親房即古今集序に成妙と記し
と五十八代の神門光孝天皇神胎あり一侍帝の神發ふ
赤たをるぬそる女房は花にまき
立くくふむけ世よぬいん共るりたわきの浦波
と世ふ瓜誦くたの帝神發の中は誰人にくまきとむんぞと

たげのこもあいたはるる長通娘ありとくそらとくうとくゆふ
よりて仁和二年九月十二日右大辨原隆行を勅使とく
紀伊国高浦につらとく長通娘とみゆ女の林とらひむら
以上と流とも長通娘をとりまきとくとくく國史よとく
しとちくえうけ地は長通娘の跡とくまらん由縁とく
とらなやすとく世に人り詠りはとくを上の件り人の書
はとあひとく信とくとら流とくまきとくとくとく年あり世
下りておとくと考る人あり准後を侍るしとく
ちるまらり
本紀通記のつらまらる中 龜元元年十月に長通娘は紀伊高浦に生れしと云ふ事あり
あやまらるまらり 是は信吉の林とくまらるるに林内皇后と
奉りつとくとくはとく先世地と玉侍女とくとくはとく女の
とくとく上宮の玉出とくとく津守とくとく獨きとく習とく
まきとく出のまらとくとく

玉出鳥



付多考の... 十五秋の... 大内言世

七の... 浦を... 名月やいとふくけて浪のこ

満く... 柳風

日玉津真洞

林羅山

百世... 報蜘蛛喜網住允恭天子心

日洞玉津嶋

江郎綾

江山一望画图中... 海寺青松掩映玉津宮

岩根のとき

家集

玉津岩根のす... 玉津岩根のす

狂秋

一か... 其角

妹脊山台取圖

湖痕幾

人上採

磯同毛

以土之

奇産物

專妹皆

辨

養素



林泉風を出推うく後らひも沙構の遺致ちうとそ南ふ
しういあうも屋風とまろぶく千カに聳へ方丈のまはるよま
後きりうたはじ藤鉄藤其余奇樹怪石のふりもい
ねんまは絶頂よのちう手く木の根岩とんすうり眺
をさうふ月うらめん只あうく行を生だ

松原

松原

松原

松原

松原

松原

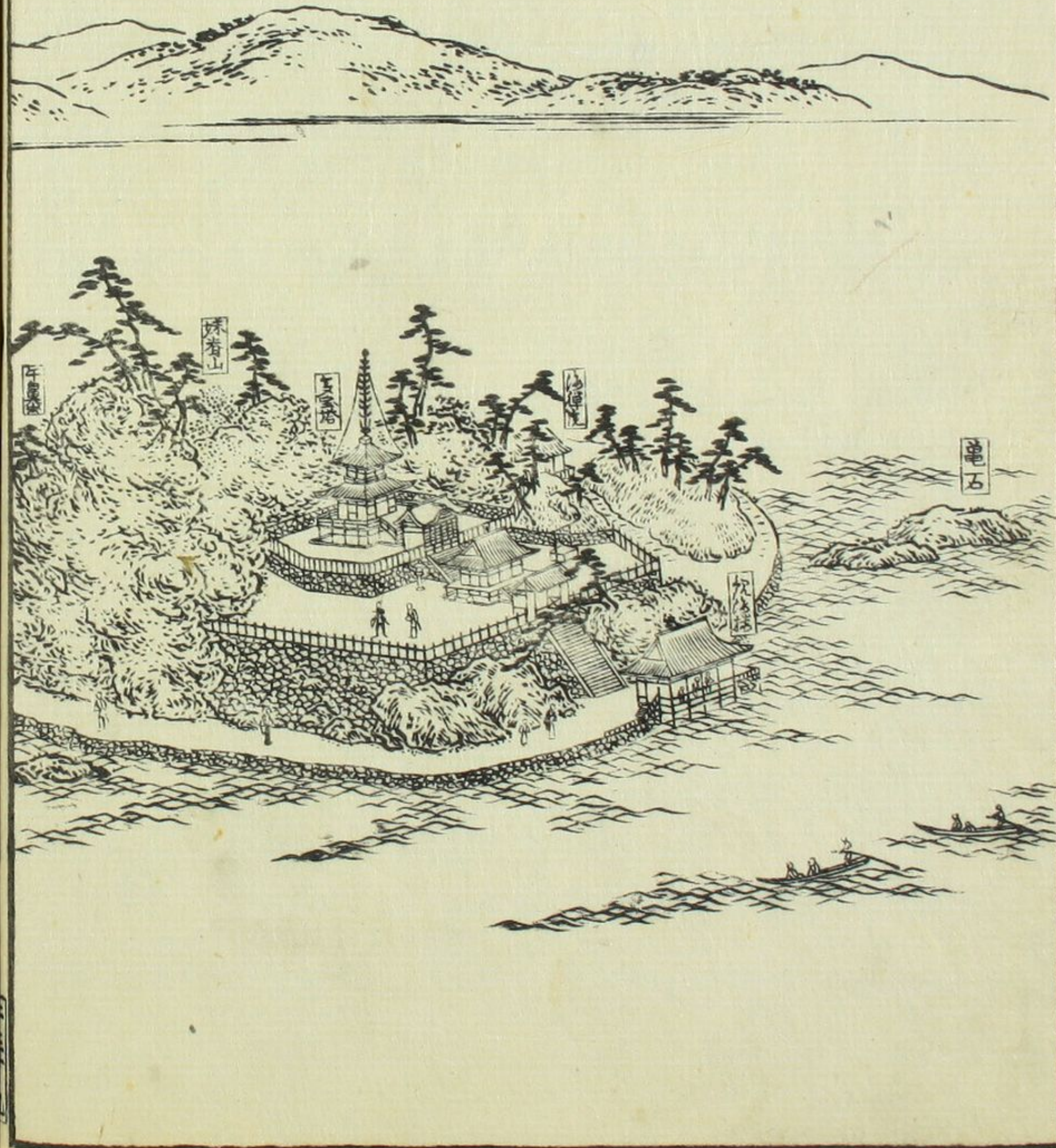
松原

松原

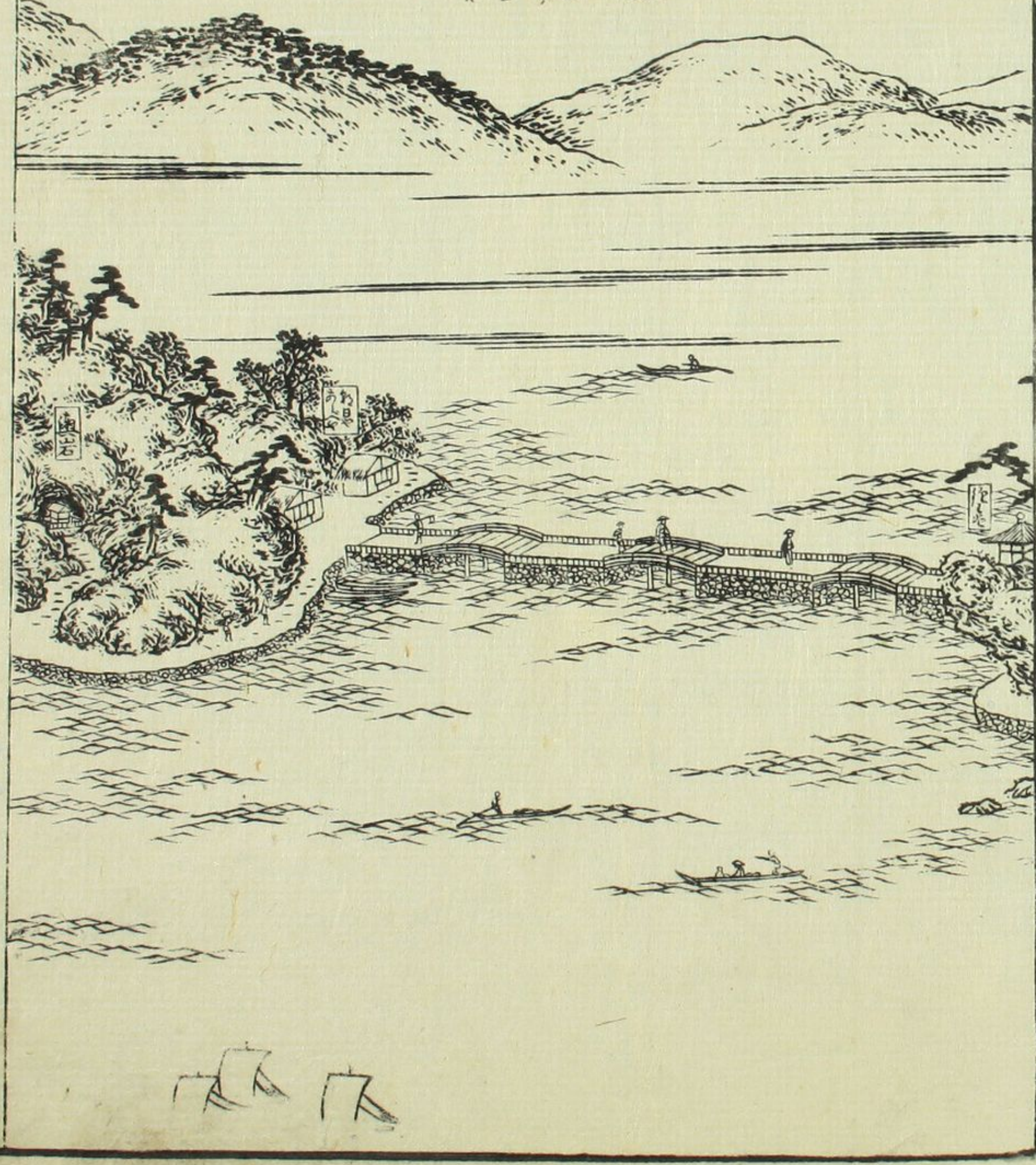
中野つみと
栄 雅
後相原院
松

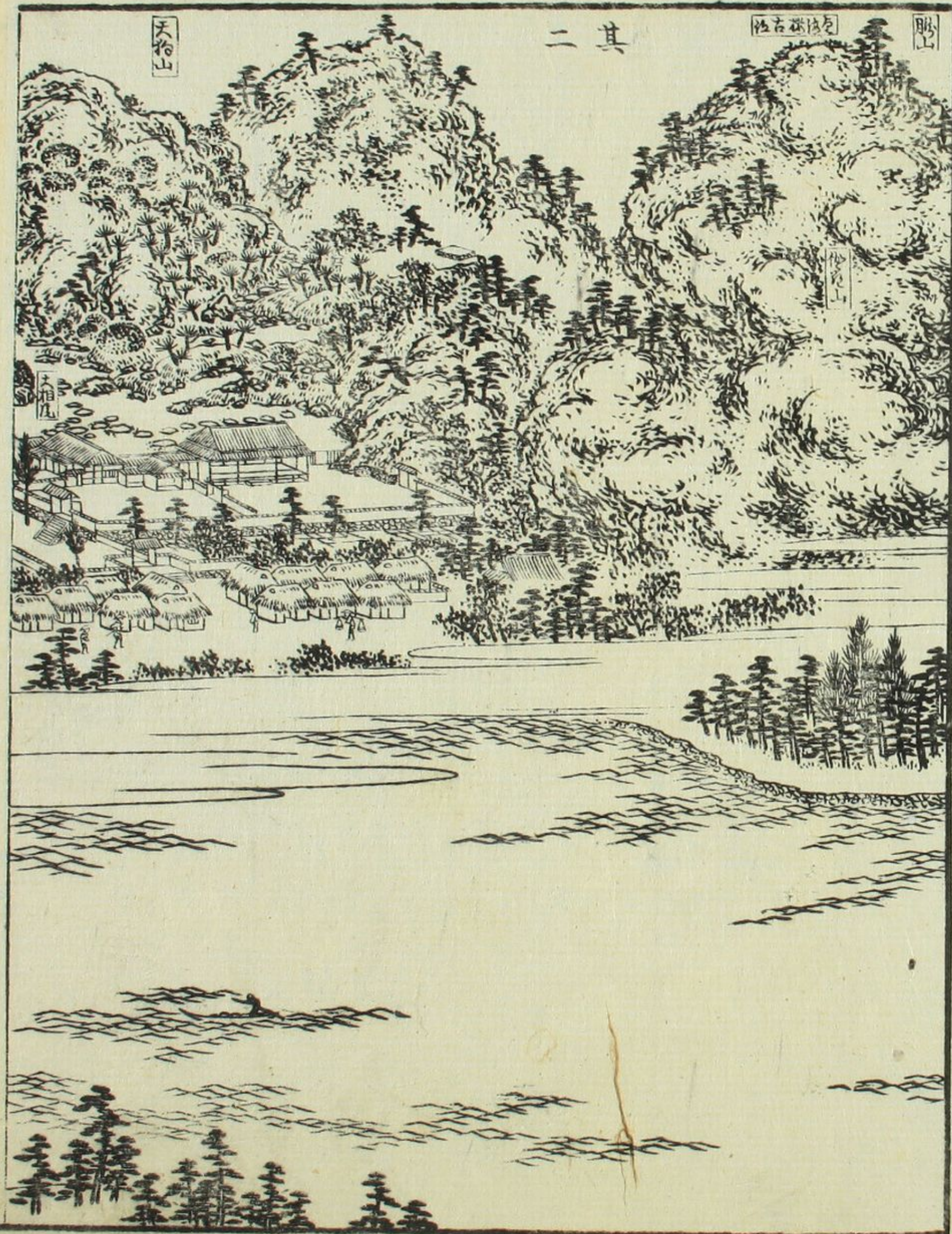
妹背山
 多寶塔
 觀海樓
 三新橋
 芦邊倉屋

三親
 江上迢遙
 住客船子
 規啼盡暮
 春天聲聲
 一夜催雙
 淚回首鄉
 雲落月邊
 大江資衡



明光蘆花
 弱浦一名
 明光浦古
 人有蘆鶴
 咏今有蘆
 亭
 閑倚西風散
 倚波蕭寒却
 比夢花多曉
 飛官雁月侵
 夢夜釣魚舟
 雲滿衰
 社南海



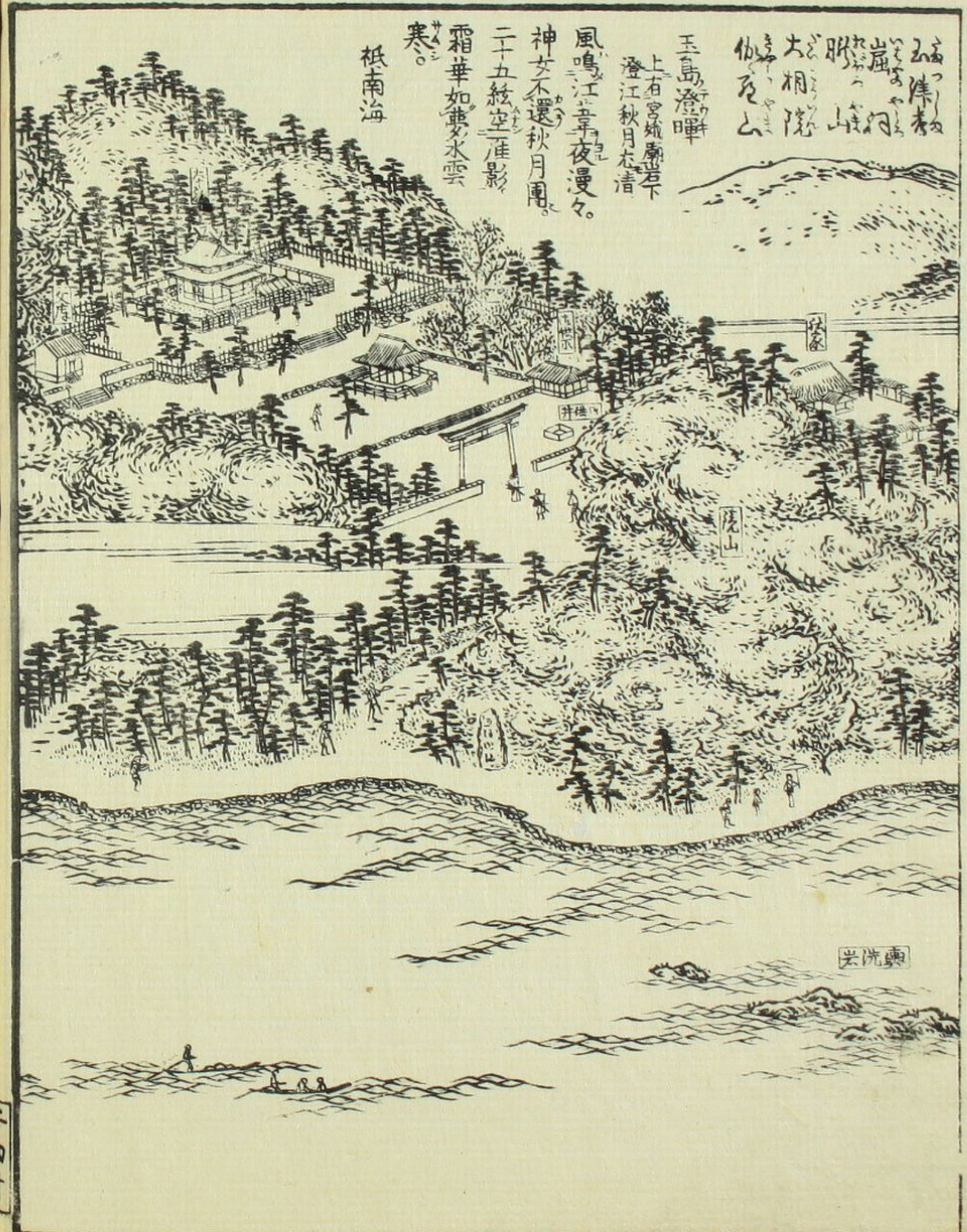


天狗山

其二

松石山

松石山



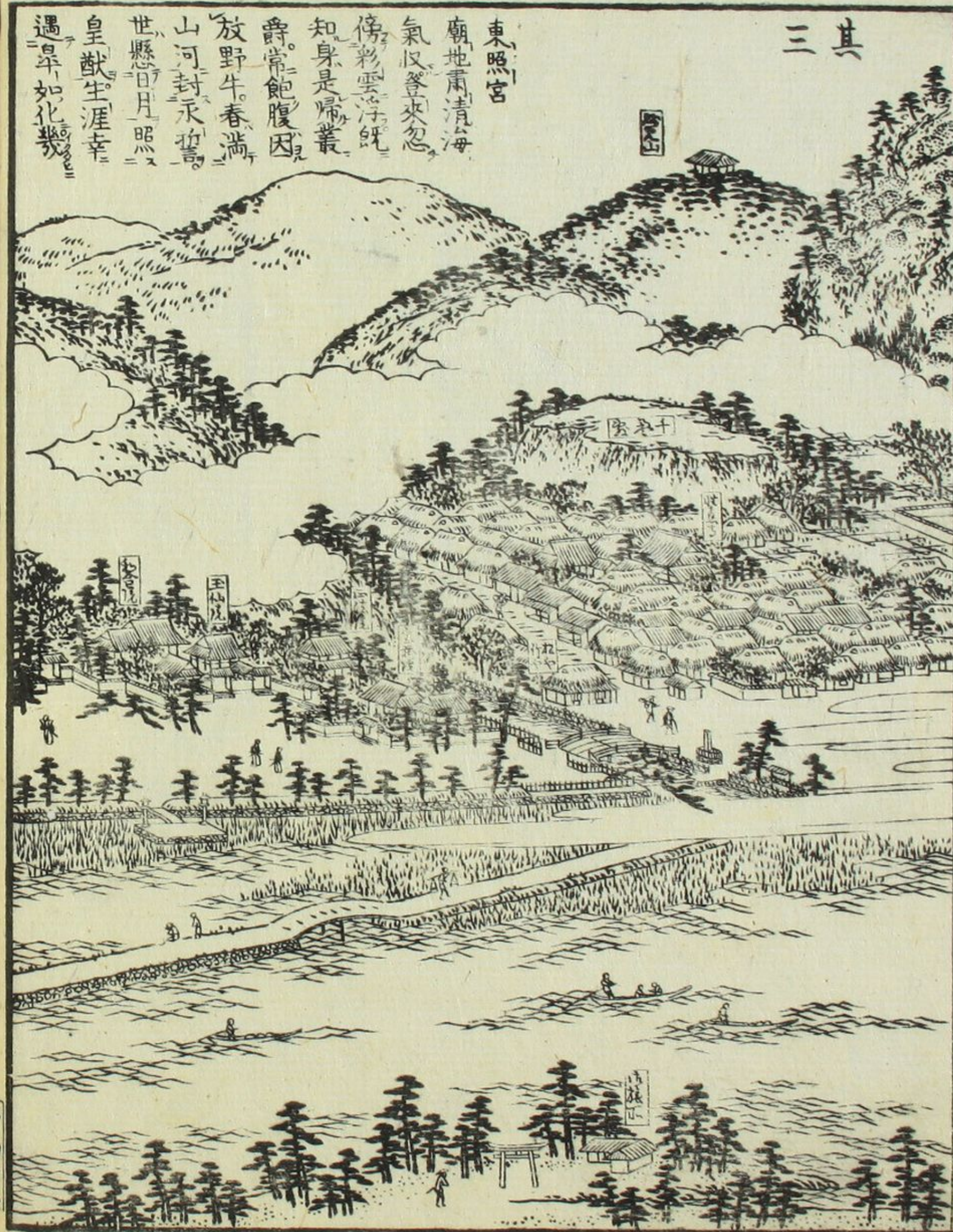
玉島澄暉
 上有宮城廟宇
 澄江秋月尤清
 風鳴江章夜漫夕
 神女不還秋月團
 二十五絃空雁影
 霜華如夢水雲
 寒。

祇南海

松石山

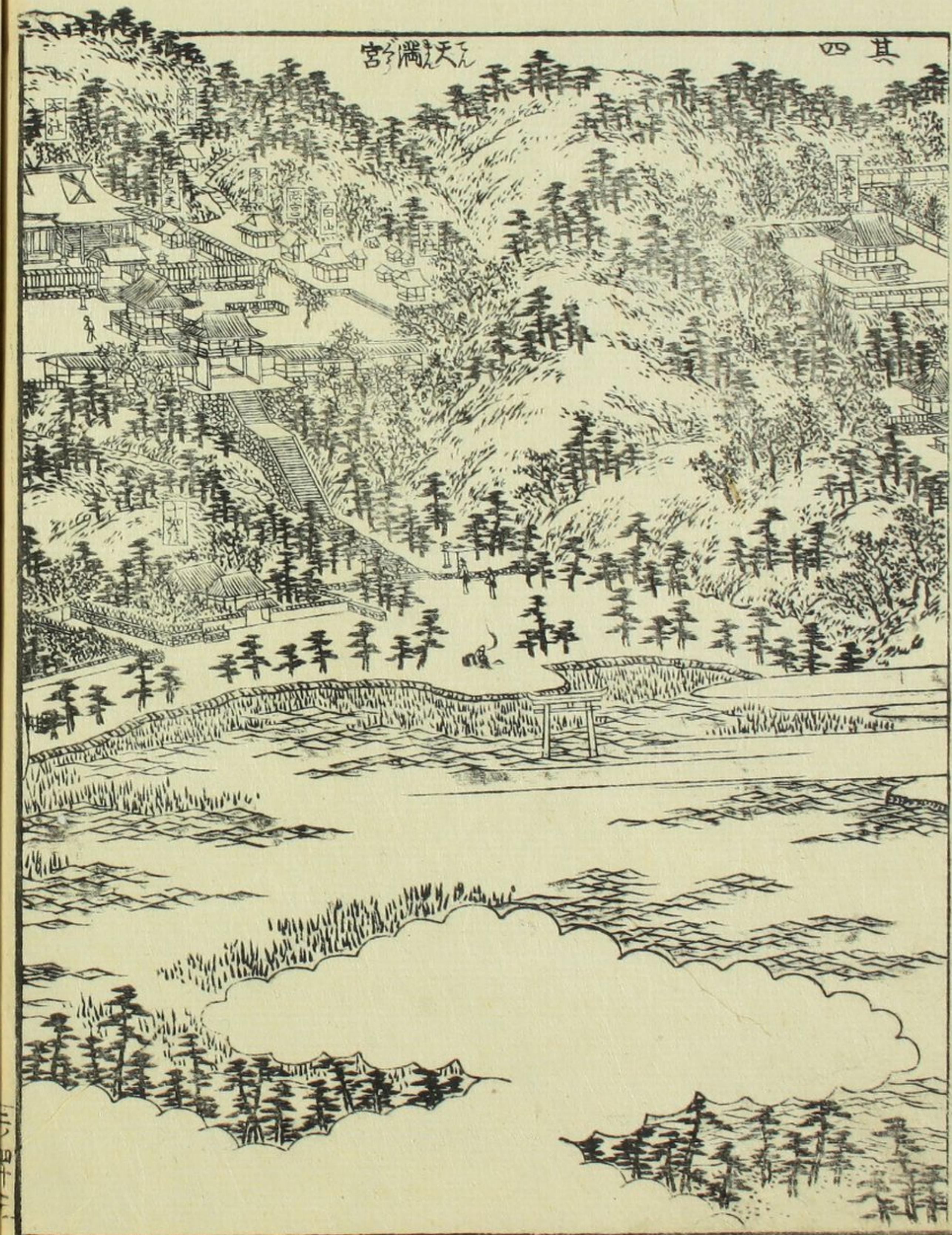
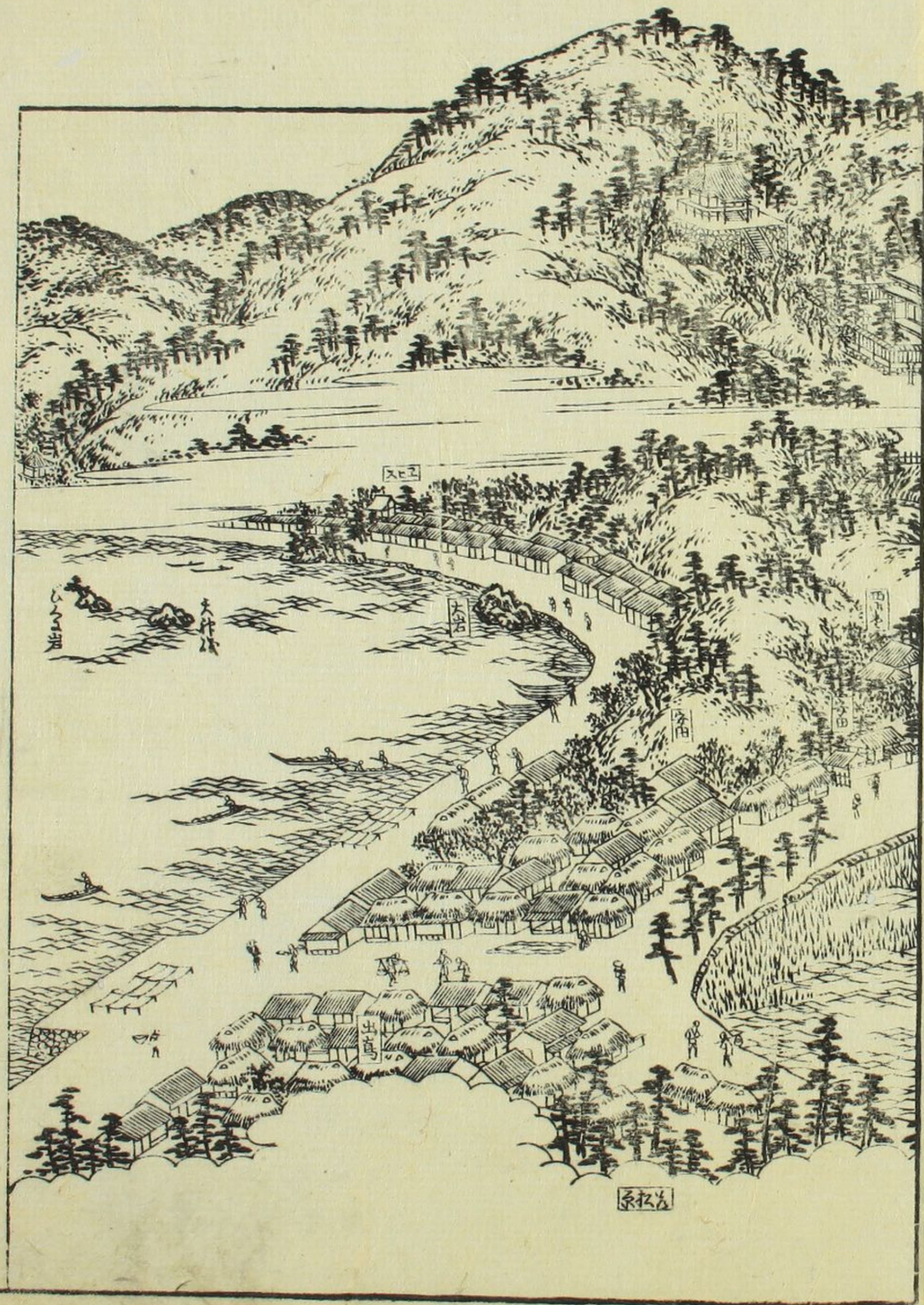


見衣冠歲出
遊
熊野崖為人



三其

東照宮
廟地肅清海
氣以登夾忽
傍彩雲浮既
知身是歸叢
爵常飽腹因
放野牛春滿
山河封永雋
世懸日月照
皇猷生涯幸
遇昂如化數



和歌浦

秋日遊明光浦
東南山水美
未有若明光
惜乎數十載
奇蹟無一章
吾今傲雲月
斗酒搜枯腸
安得木天白
百篇共商量

祇南海

題和歌浦圖

明光浦上幾回去
美景令人屢開毫
今日觀圖詩思動
卷舒吟誦意陶然

伊藤蘭嶼



分合

松原田鶴乃あく塩子ゆけ立腰りか 入道大尾

雪ふれお方の松原埋まき塩子内房の姿をききた 雅永朝臣

和歌御宮

本宮奉拜御神座 東照大権現 日吉山王権現 摩訶羅神

拜殿 唐門 護摩堂 摺門

三重浮圖塔 藥師堂 閑山堂 御橋 石巻表

和歌御宮 本宮西の山ありあり神宮の御堂ありあり
唐門 唐門の西ありあり
護摩堂 護摩堂の西ありあり
摺門 摺門の西ありあり
三重浮圖塔 三重浮圖塔の西ありあり
藥師堂 藥師堂の西ありあり
閑山堂 閑山堂の西ありあり
御橋 御橋の西ありあり
石巻表 石巻表の西ありあり

當 御宮の元わ六年庚申の歳乃神造管りく比敷山たる心慈
眼大師の岡山ちう神草地薬師瑠璃光如来さましく相殿に
摩訶羅神おまひ日光山王権現さまたかひこ山をまじく

東照三宮を稱一奉まう念思も 神君亦在世の清くも

今も追々思ひなるよん文元龜の間天下授けく武將兵人

に乞ひり織田豊臣の両将軍を起り後よてび世事み

辱れどもも是武の偏みくま味くきよ奉るの旨よ

したとあさだ未幾はぬぬき七の初めまらぬるいれま

ひとた母いたよあひく

神君勃然くく怒りてあひてひ戎衣く完後と平げぬく

干戈の霜とぬ陽の消へ長は氏草の常と春風は靡せあへく

たつて豊洲よであひる紅梅のゆきび枝葉に揮くごてく

御徳ハ 御神号にもいらりきく

神影のてしまる降いけまぬ 神代くよ宮の折りくもく

龜の尾の縁の色とあそひ影の鬘髪をうとあつてく 風徳と

後まらるゝね莫老の 恩はるるあはらぬ 神宮の結梅の

申も悲多しんも麓より山上ありく石築たちよあるふん

朱の玉垣ぬ深く林密の後翠は映若くて一霞の虫遠と睡

神威はのつゝ崩はまほしあひの靈地をう寶殿の山上建て

三葉四葉の昔をく美をく輪無くく流人の眼を瓜

奪へぬ赤の梅花二三流の山よりうつゝまきく紫雲の色ちと

きち赤衣は傍る松樹のねち松原のむくをのこてふ秋の

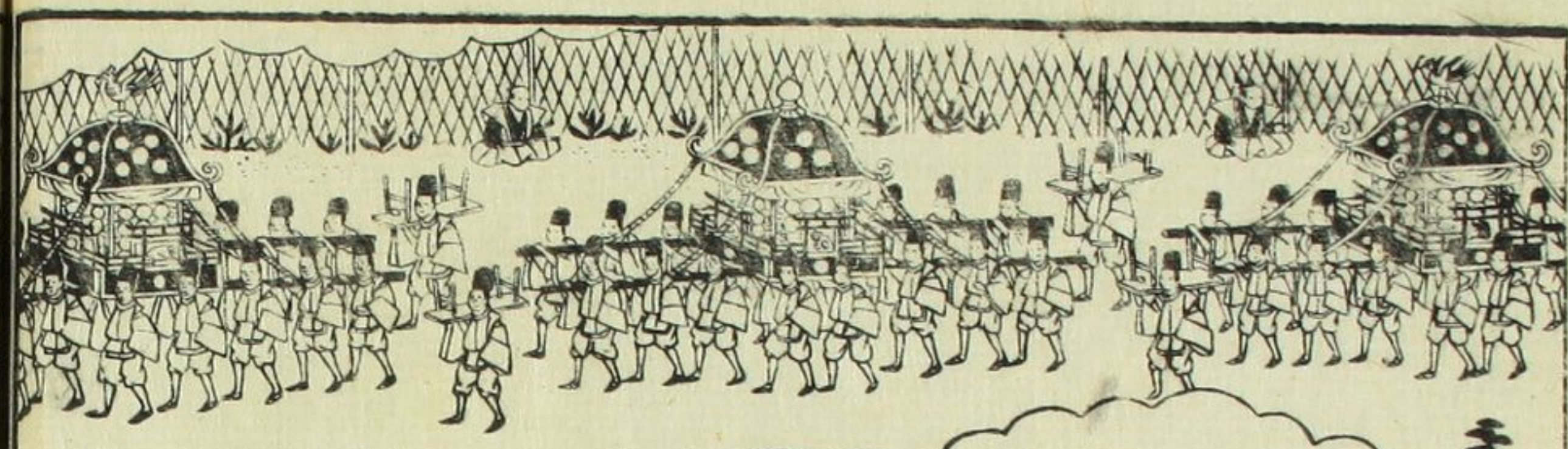
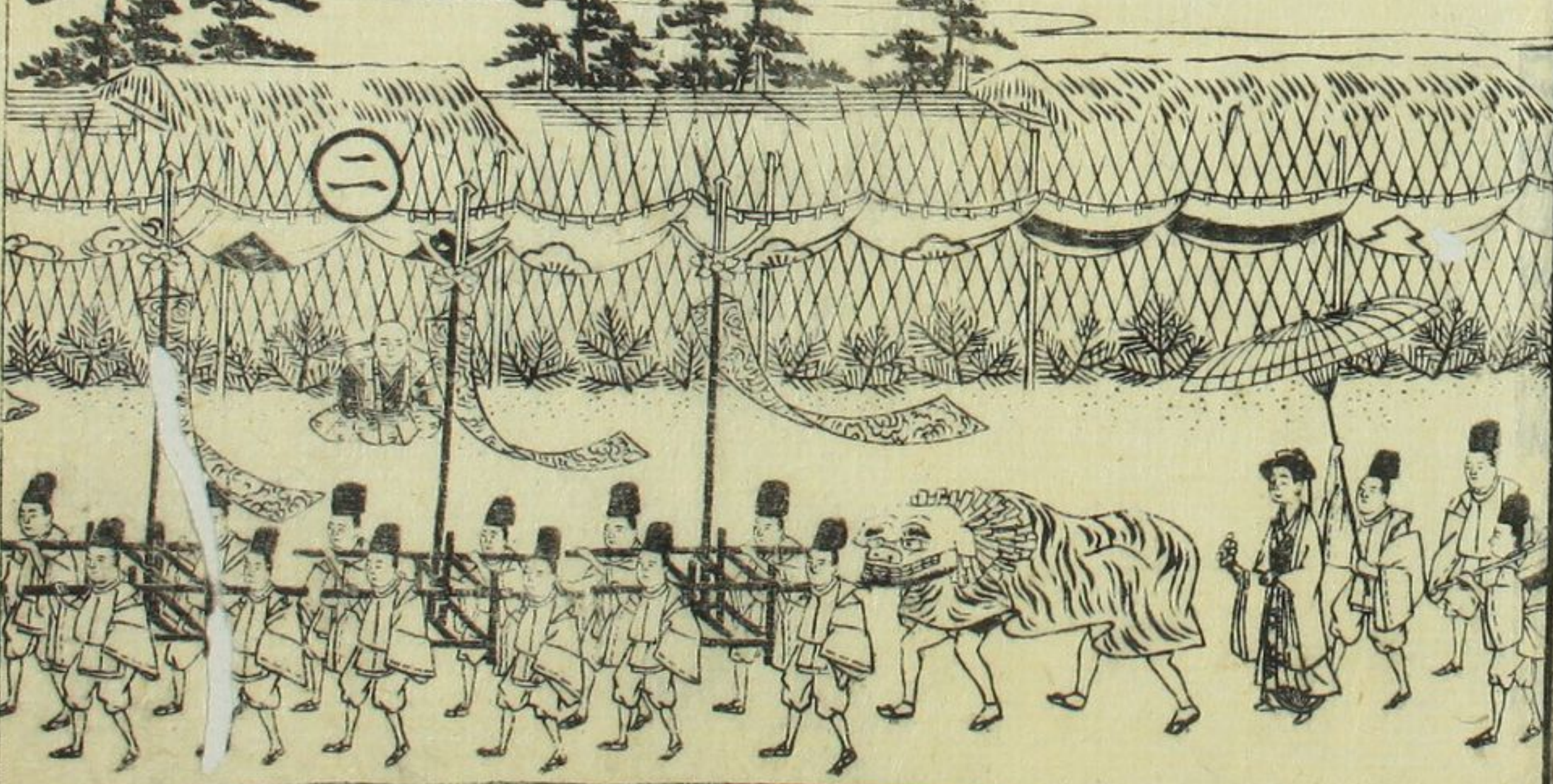
翠色にけり

神祭の事

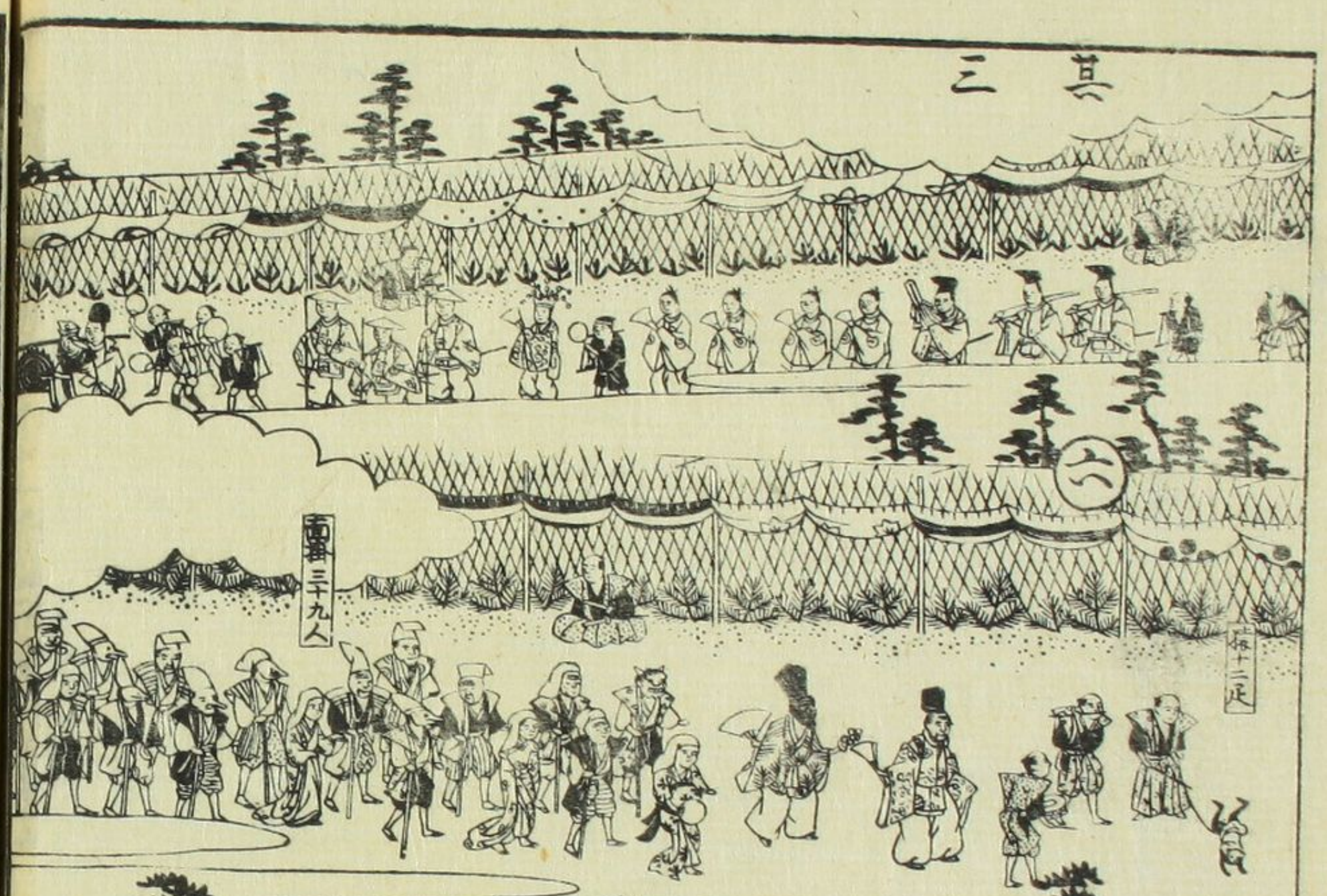
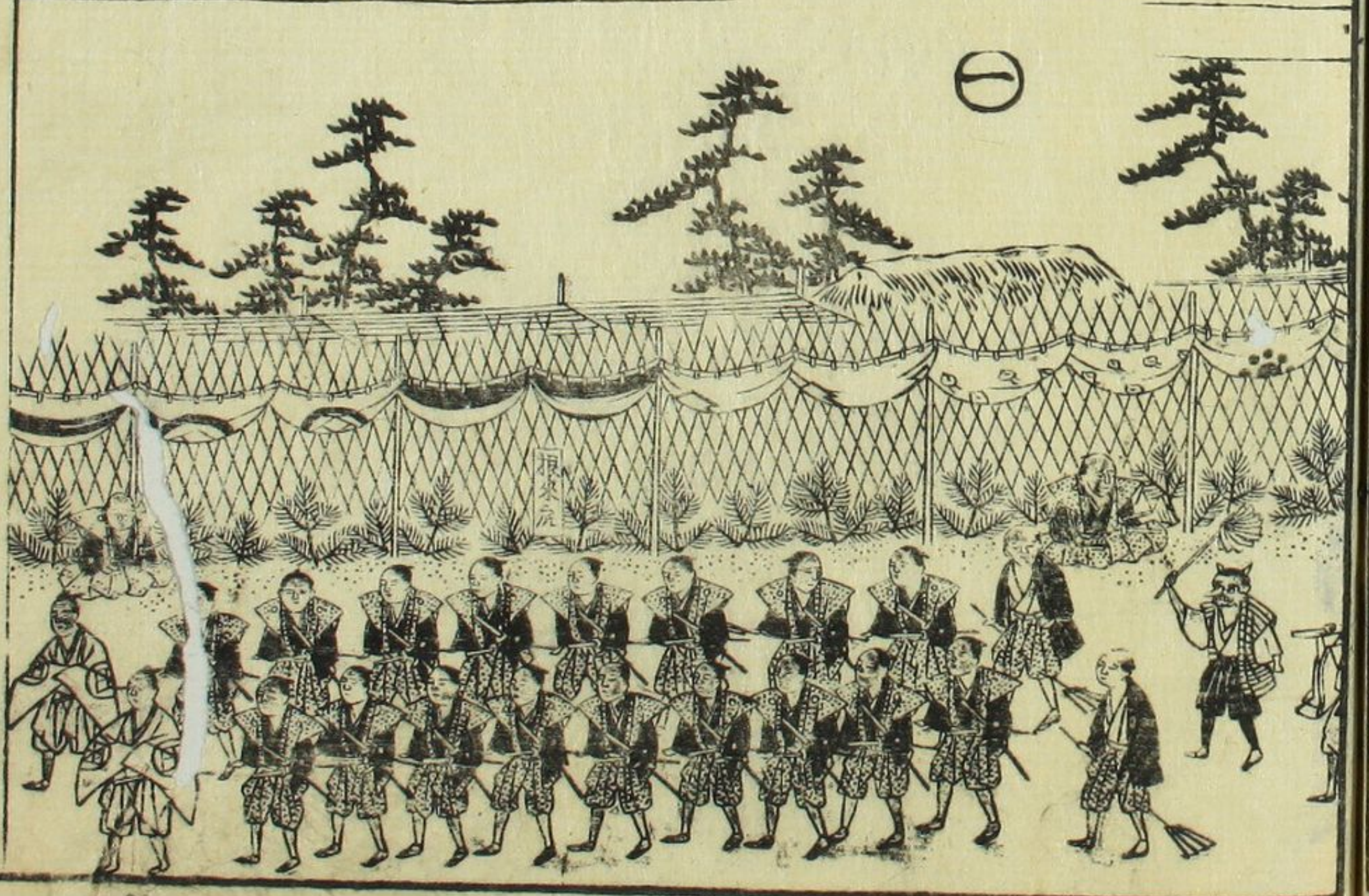
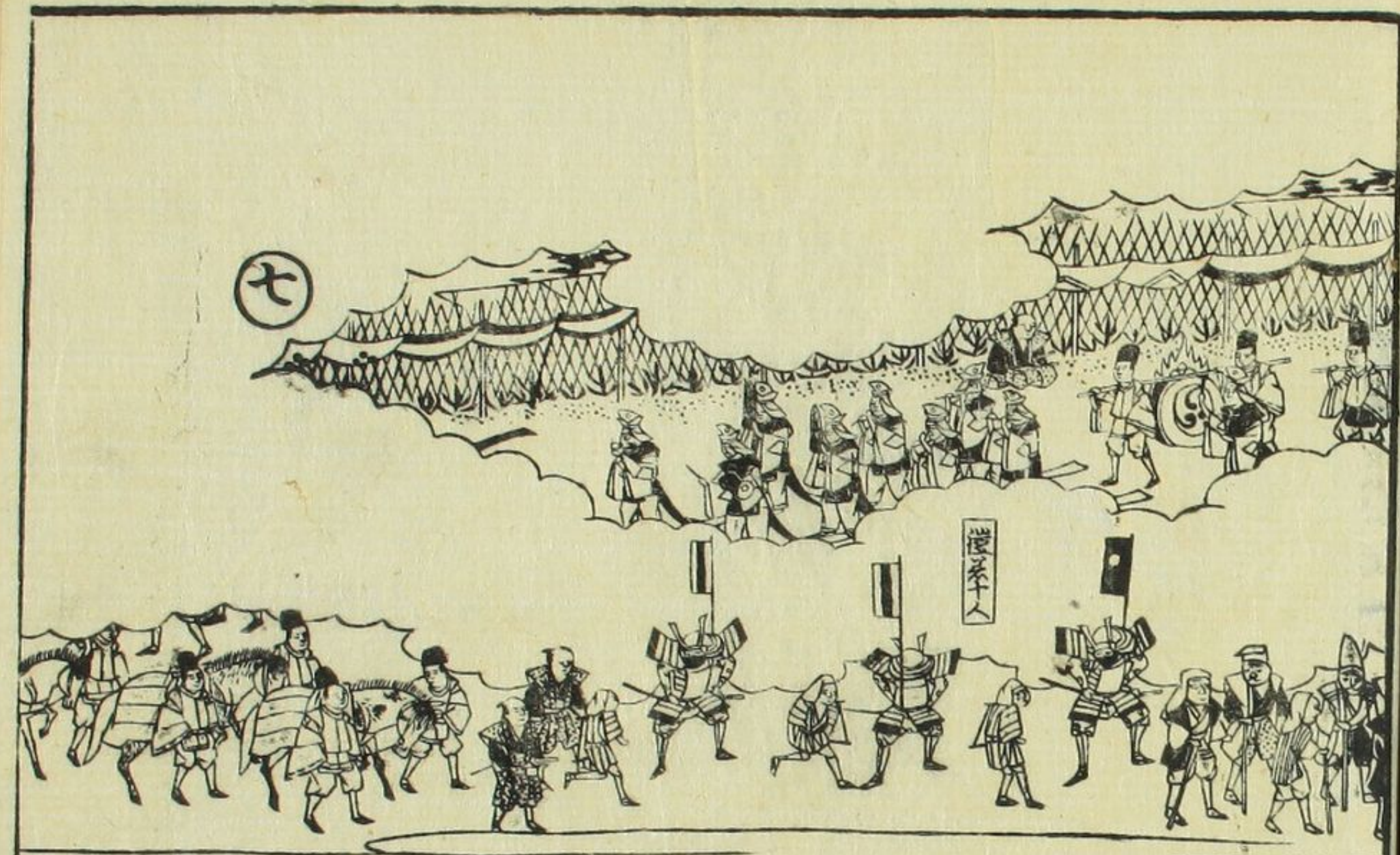
毎月十七日 樂海奉りた九月十七日神山のまきく慶小終はく相撲あり

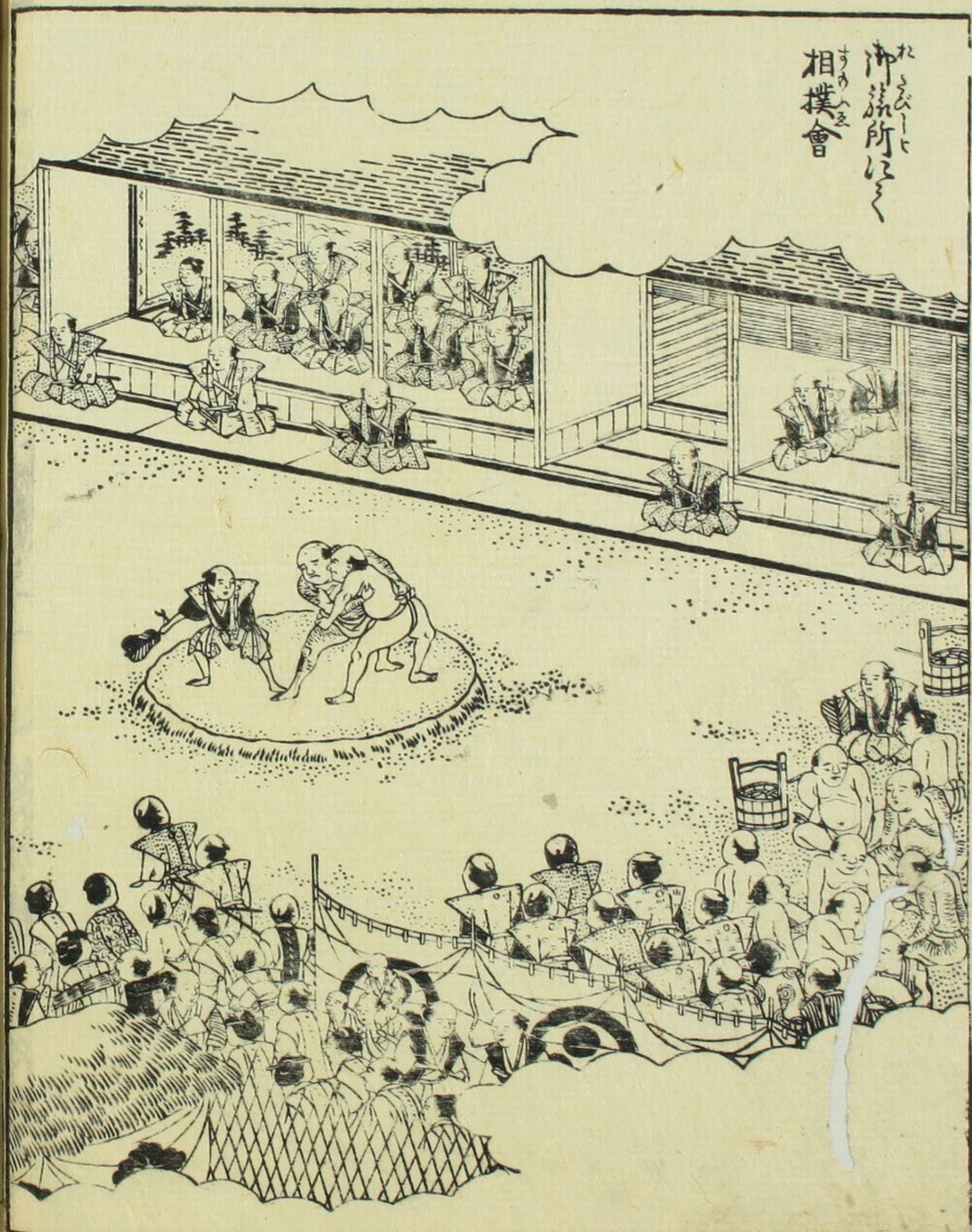
外中祭中宵月十七日の神祭に自餘の式はなまりり神山の





二其





天満宮

東照宮神宮の西の山にあり

山殿

拜殿

秋仙の住み

榊門

榊と麻とをまじりて

末社

白山

白山

牛の画

九日塩かん小兵庫

誠とちやせり

樹あり

画の下の

貞享四年四月

しそ

其の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

野氏幸長公就昨土之封之五年相在四制之隘陋而於
 邑不措焉然神之主先成民而後致力於此豈固非
 域依崖壁疊鉅石躡攀崢嶸百工子如來行堂不日
 以落矣刻畫華彩丹漆黜聖述哀之也此也然於
 棄目若秋梁公毀江淮淫祀一千七百區所存者惟夏禹
 伍子昏二廟君子猶以存伍子昏廟未是國主之
 於此廟可毀乎以新焉可瘞乎以崇焉可為可而也
 羅山詩集云後欽浦天漢宮者未詳其州創之時世
 也其從來已久矣或曰橋直幹自宰府敗京師時過此
 浦而始崇奉焉今所存者法也幸長之所改造也頃歲
 滕惺窩應幸長之求而作廟碑銘然有故不建碑之
 宦氏為風儒者宗靈神今古仰遺跡西都北邙南

溟浦二處祠堂一色松

和欽浦

今西南出考浦あり上古の

溟浦のりうれ浦

後原脚

- 日 芳浦尔白浪立而真風寒暮者山跡之行念
作者不詳
- 日 芳乃浦尔袖左陪治而忘貝拾杼妹者不所忘尔
連敏法師
- 日 老の浪も〜〜〜
大納言師頼
- 日 記花 芳他や久米の作ら〜〜〜
贈左大臣
- 日 子載 芳手は〜〜〜
祝部成仲
- 新古 藻塩〜〜〜
源家長
- 日 和の浦さかしの風をま〜〜〜
民ら範光
- 日 美の浦に月れ出〜〜〜
美
- 日 美の浦や沖は〜〜〜
隆
- 日 美の〜〜〜
寂 蓮

新勅

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

法眼宗圓

きこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

師

俊成の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

俊成

西行法師の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

西行法師

前大政大臣の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

前大政大臣

正三位知家の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

正三位知家

藤原為綱の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原為綱

藤原師季の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原師季

平泰時の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

平泰時

平時直の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

平時直

藤原光俊の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原光俊

藤原秀茂の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原秀茂

正三位経朝の浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

正三位経朝

續拾

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原秀茂

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原泰時

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

権律師定為

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

為家

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

道洪法師

新後

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

前関白大政大臣

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

為世

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

院御製

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

津守國助

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

入道前大政大臣

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

為氏

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

前兵衛督教

日

つゝの浦にきこまらぬ海士の藤原氏とていふはたかやま

藤原泰時

前大納言為氏玉津若社に命けりしは浦月

玉葉

わがみくに政付さく濱海なるあはれきなるのやぐ

中臣祐信

日

あつちの浦のあつちなるあつちなるの葉もく非

平貞俊

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

藤原景綱

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

藤原忠定

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

法皇御製

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

平貞直

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

源高氏

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

藤原範秀

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

大江高廣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

侍從隆教

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

前中納言定資

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

丹波忠守朝臣

凡雅

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

紀行春

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

前左衛門督雅方

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

俊成

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

平久時

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

日

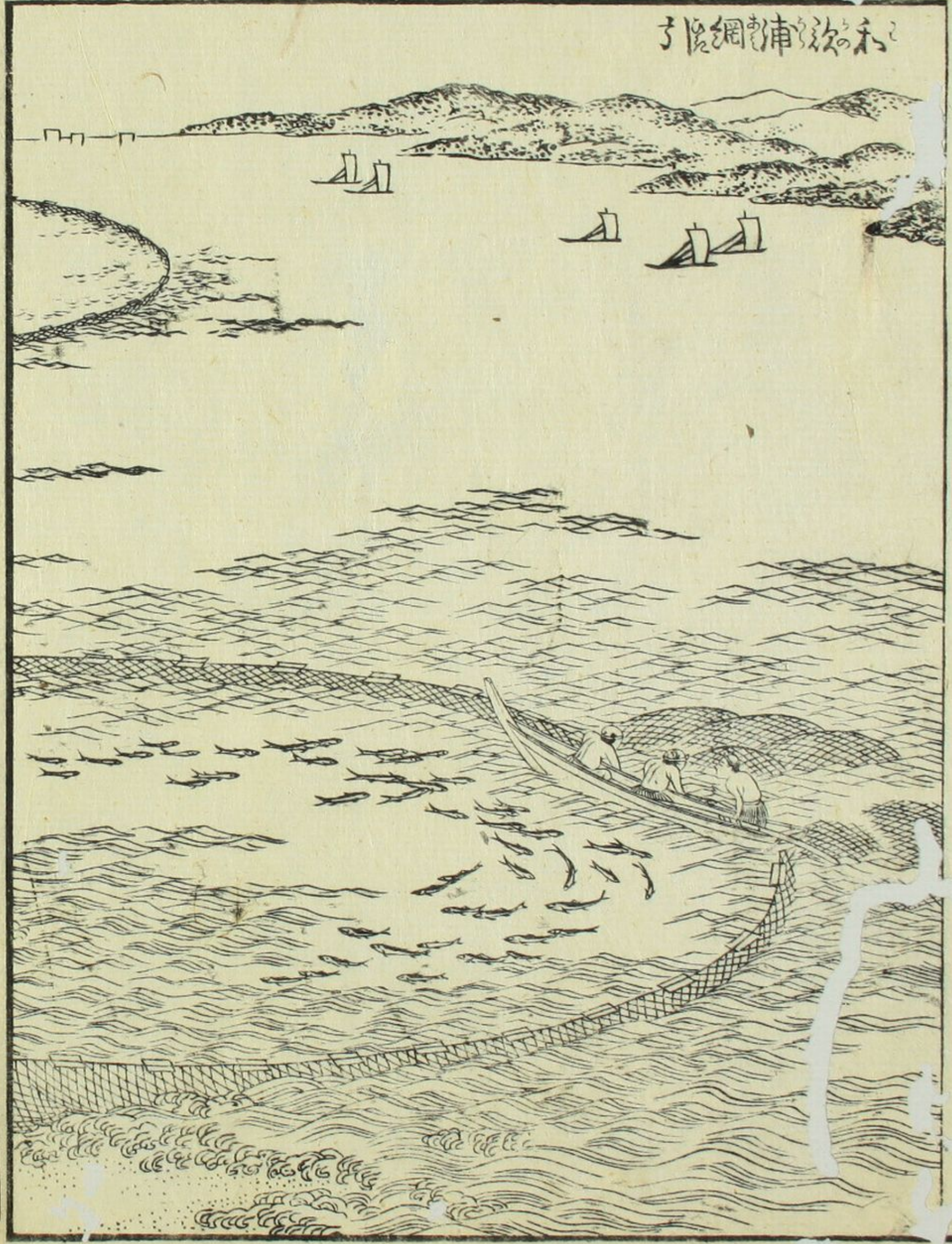
いさかきなるあつちなるあつちなるの葉もく非

後從左大臣

乘興一篇船相尋
 和浦邊姬歌波
 點雲鮫泣雨如
 烟沙岫饑鷗印
 苔磯釣客眠南
 溟殊不遠九萬
 夕陽前
 熊野老人



和歌浦網子



浩次醉上金山舟。陳跡欲尋明浦。社忠墳千年宮寂
寂。仙妃一去水悠悠。芙蓉露落青牛渚。風鳥白
鷺洲。此會相逢他何事。試將今古問沙鷗。

狂歌集

君代浪うつはくるともわのうとつとる船とる

若山 貞 龜 雅

わがのうとつとるもくやわがのうとつとるもくや
わたるもくやわがのうとつとるもくや
わたるもくやわがのうとつとるもくや
わたるもくやわがのうとつとるもくや
わたるもくやわがのうとつとるもくや

和詩

小貝文々浦の綿に雲と霞む山乃成

日

波もきたるの影なる夜に長通報のほむれ

国原先生南たれゆ
わが浦ふ

東照宮右乃山上よ立たす宮は

大に〜甚美悪あり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
ひ〜なるあり其景す〜自らひきき様も〜
景し〜なるあり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
の沖靈廟あり其西雲蓋院に修十少あり甚佳景なる
石の田舎あり詠一あり 東照宮の下木林のなるあり
〜なるあり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
是ま〜山上あり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
漢人の町あり其景す〜自らひきき様も〜
〜なるあり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
〜なるあり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
〜なるあり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ
〜なるあり神領多し傍金堂一坊あり是よりつ

家

河内國三木郡三木村

家

柏玉

河内國三木郡三木村

院

雪玉

河内國三木郡三木村

院

白川

河内國三木郡三木村

臣

河内國三木郡三木村

家

河内國三木郡三木村

山

紀伊國志所圖會之二卷終

